

RHELを使い始める時の留意点

2020-09

このスライドについて

- 対象: CentOSなどでLinux利用経験はあるがRHELを利用するのははじめての人
- 目的: RHELを使い始める時に困らないよう、RHEL特有の要素を簡単に紹介する

目次

- サポートを活用しましょう
- Red Hatカスタマーポータル
- Red Hatアカウント
- Red Hatカスタマーポータルのツアー
- OEM製品のアクティベーション
- 製品のダウンロード
- Red Hat Insights

サポートを活用しましょう

- RHELのサブスクリプションは問い合わせ回数無制限のサポートを含んでいて、追加費用なしでサポートを受けられます
 - Standard, Premiumの区別があり、対応時間などサービスレベルが異なります
 - OEM製品、クラウド事業者から提供されるRHELのサポートについては各社へご確認ください
- Red Hat製品に精通したトラブルシューティングの専門家に相談できます

[RHEL]のサポート窓口は様々

ソフトウェアとしては同じでも、誰がサポートを提供するかが異なる別の製品があります。自分が利用するRHELのサポート窓口を確認しましょう

- Red Hatがサポートを行う
 - Red Hatから直接または販売代理店経由で購入
- OEMパートナーがサポートを行う
 - OEMから直接または販売代理店経由で購入
 - サポート範囲はOEM各社により異なる
- クラウド事業者がサポートを行う
 - AWS, Azureなどのマーケットプレイスから購入されるもの
 - サポート範囲はRed Hatのものに準じる

Red Hatカスタマーポータル

- Red Hatカスタマーポータルでは製品のダウンロード、ドキュメント、ナレッジベース、サポートの起票、ユーザ掲示板、製品の脆弱性対応など更新情報、各種ツールなどを一箇所で提供しています
- Red HatまたはOEMによる製品を購入している場合、Red Hatカスタマーポータルの購読者限定のコンテンツを利用できます。(クラウド事業者からのみ購入の場合は不可)

<https://access.redhat.com/> Red Hatカスタマーポータル

<https://access.redhat.com/ja/articles/107663> カスタマーポータルのFAQ

Red Hat アカウント作成

- Red Hatまたは代理店から購入しようとする「Red Hatアカウントを作成して教えてください」と言われ、購入後サブスクリプションが登録されます。
 - 組織全体に対応するアカウントを作成します。
 - <https://www.redhat.com/wapps/ugc/register.html>
- Red Hat Loginにひもづけるメールアドレス
 - 個人のメールアドレスで登録すると、担当者の異動などで対応が必要になり、しばしば対応自体を忘れられてしまいます。
 - 運用管理者のメーリングリストなど、組織に対応したメールアドレスを利用することをおすすめします。

Red Hat アカウントの問い合わせ

パスワードがわからなくなった、担当者が退職してメールアドレスを変更したい、アカウントに登録されるはずのサブスクリプションが登録されないなどの場合は、**カスタマーサービス窓口**にご連絡ください

- テクニカルサポート窓口ではご対応できません
- 日本語: 0120 266 668 (オプション 3)

1アカウントを複数ユーザで共用

- Red Hatアカウントは通常**組織**に対応します
- 1アカウントに対して複数の**ユーザ**を登録し、必要な人がアクセスできるよう共用できます
- ダウンロードや問い合わせの実施可否など、権限管理ができます

<https://access.redhat.com/ja/node/2435781>

カスタマーポータルツアー

- アカウントを作成してログインします。
- カスタマーポータルで何をできるか、どのような画面があるかの概要をつかむため、主な機能を見ていくツアーをおこないます。
- ツアーはあとで“Getting Started with Red Hat”というリンクでも参照できます。

<https://access.redhat.com/start/>



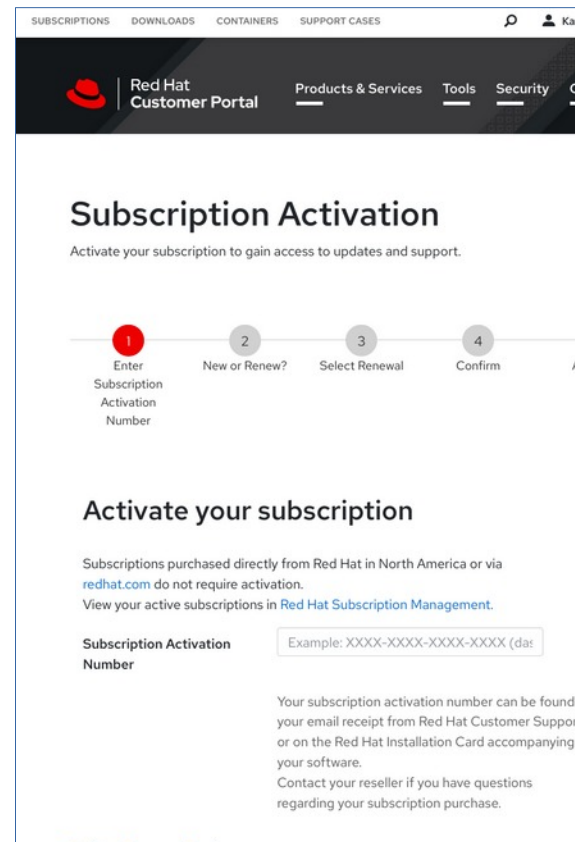
カスタマーポータルもサポート対象

- カスタマーポータルで困ったときにもサポート窓口を利用できます
 - カスタマーポータルの使い方がわからない
 - ダウンロード方法や製品のドキュメントをみつけられない
 - その他動作がおかしいなど
- カスタマーポータル最上部の「サポートケースを管理」というリンクか、電話でお問い合わせください
 - 日本語: 0120 266 668 (オプション 2)
 - 英語: 0120 655 103

OEM製品のアクティベーション

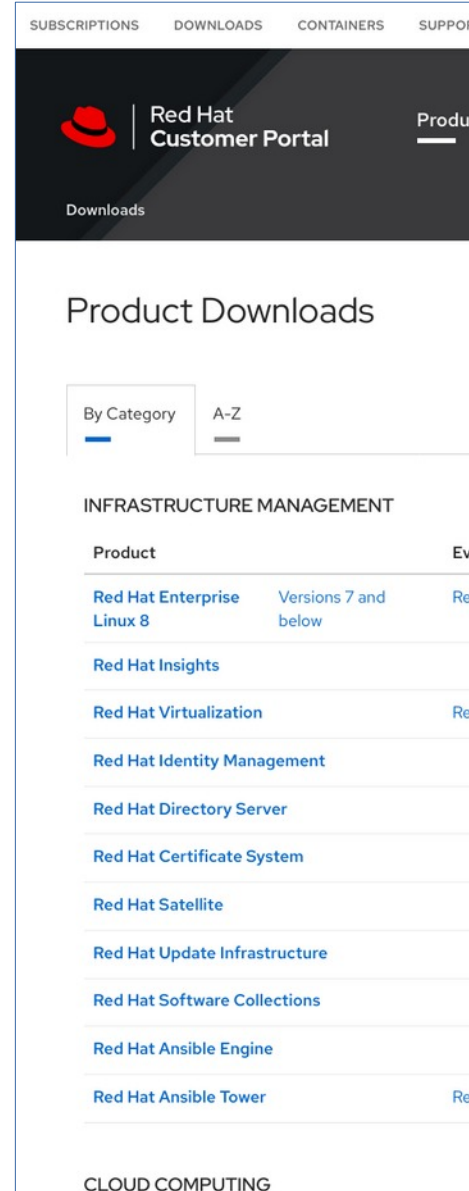
- OEM製品を利用する場合、OEM各社から発行される「Subscription Activation Number」を登録することでサブスクリプションを登録します
- OEM製品は、製品名に(L3 only)のような名前が含まれ区別できます。
- OEM製品のサポート窓口はOEMパートナー各社ですが、カスタマーポータルナレッジベース、ドキュメント、製品ダウンロードなどの機能を利用できます。

<https://access.redhat.com/subscriptions/activate/redhat>



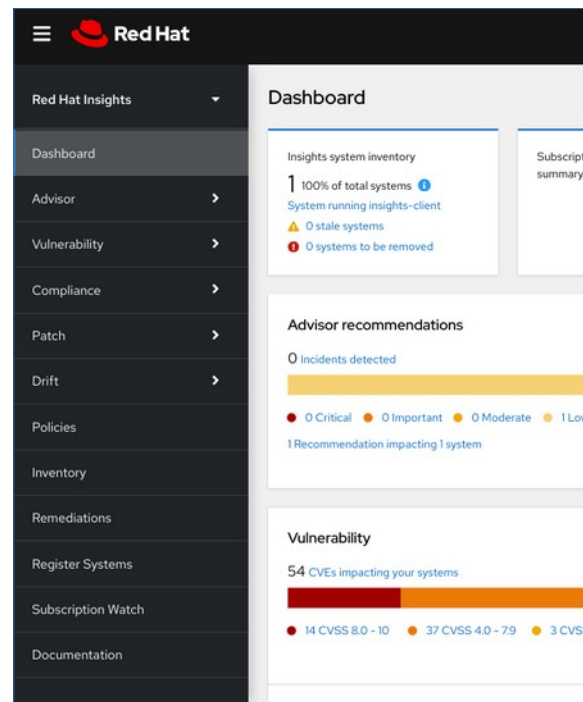
製品のダウンロード

- <https://access.redhat.com/downloads/> から製品のダウンロードができます。
- Red Hat製品はバージョンから独立したサブスクリプションなので、新旧どのバージョンでも利用できます(サポート可否は別途ポリシーがあります)



Red Hat Insights

- RHELのダウンロードやインストールができれば、Red Hat Insightsにシステムを登録しましょう
- Red Hat Insightsは全てのRHELで利用できる診断サービスで、潜在的な問題の検出と修正方法のレポートを表示します。
- サブスクリプション登録後、以下コマンドで登録できます
`# insights-client --register`
- <https://cloud.redhat.com/insights/>



まとめ

- サポートを活用しましょう
- Red Hatカスタマーポータル
- Red Hatアカウント
- Red Hatカスタマーポータルのツアー
- OEM製品のアクティベーション
- 製品のダウンロード
- Red Hat Insights